

はっけん

【掲載内容】

◎各県からの近況報告

【長崎県】

「2016 年度研修会」

長与手話サークル 西川竹美

雨の降る10月23日(日)、長崎県西海市大瀬戸町雪浦(ゆきのうら)の公民館に、ろうあ者を含む約40名の会員が集まりました。一年に一度の研修会は、県内3ブロックで持ち回りに行っており、今年の担当は南部ブロック(長崎・時津・長与・五島・西海の5サークル)です。南部ブロックはいつも「さるく」(長崎弁でまちをぶらぶら歩くの意)を計画しています。今年5月に新しく手話サークルができ、県手連に加入した西海市手話サークル「虹」の入会祝いを兼ねて、西海市雪浦地区をさるく計画を立てました。



さるくのですから雨では無理よね、室内で講話を聞くことになるよね、と勝手に解釈し、雨の装備も充分しないまま行きましたら、さるくガイドさんから「行きますよっ!」との軽い返事。えー!!この雨のなか歩くんですかー?!とビビってしまったわたくしでしたが、もちろん皆さんは雨の対策もされており、万全の装備。(;д`)トホホ・・・。

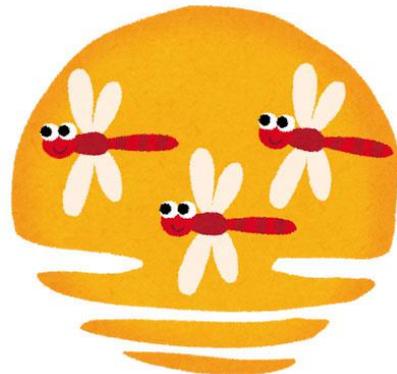


この雪ノ浦地区は、過疎化対策として「NPO 法人雪浦あんばんね」という会を立上げ、総務省の過疎集落自立支援事業を受け、年間を通して地域に密着した活動を展開している所です。老若男女を問わず、地の人と移り住んで来た人とが一緒になって、歴史を知り、古いものを大切に後世に残して行く、そんな暮らしをしていることが、よくわかりました。さるいた後のグループ討議「今日の学びを自分の地域で生かすには?」では、

- ★仲間意識を持ちともに行動する。
- ★サークル員、家族、仲間にも伝え、地元の良さを再発見する。
- ★優しさをモットーに暮らす。
- ★地域の良さを改めて見直す。

という意見が出ました。手話サークル「虹」の紹介や伝言ゲーム・手話ビンゴゲームをし、刺激をもらい、大笑いした、一日でした。

来年の研修はなんでしょうね～
乞うご期待!!



【福岡県】

「災害フォーラム2016 ～熊本地震から学ぼう～」 糸島手話の会 馬原陽子

10月2日（日）福岡県聴覚障害者に関する災害フォーラムがクローバープラザにおいて開催されました。



参加者は100名弱、その内ろう者は約40名で災害への意識の高まりを感じました。

糸島からは6名の参加でした。午前には「熊本地震について」というテーマで講話がありました。講師は一般財団法人熊本県ろう者福祉協会常務理事の松永朗氏です。

4月に起きた「前震」と「本震」、私の住む糸島でも大きな揺れを感じました。この地震による死者は50名で、これだけの規模の地震の割には、被害は少ないとのことでした。

地震発生後、電気は約3分、水道は約3日で復旧しましたがガスは1ヶ月ほどかかり、温泉施設には行列ができたそうです。

避難所の建物も外見はしっかりしているように見えても中はひび割れている。しかし、仕方なくそこで生活しなければならない状態です。トイレも足りず、車イス用においては全くありません。避難してからの工夫が必要だとのことでした。



また、避難所に手話通訳者を設置してほしいと何度も話されました。市役所の

職員には手話で対応できる人がいません。ろう者に対する情報・コミュニケーション

の配慮の為に、どの避難所にも設置してほしいと。ただこの場合、通訳者も被災していることもあるので広範囲での支援が必要だと思いました。午後からはグループで、地震発生直後や避難所での行動、日常生活で何を準備するかを討議しました。ろう者は見た目では分かりません。避難所では積極的に要望すること、また、※となり組バンダナの必要性も改めて感じました。（※福岡県で作ったもの）



そのあと、災害対策委員による「防災に役立つミニ知識」の実演がありました。

ツナ缶とティッシュで作るランプ。新聞紙で作るお皿（これは排泄のときにも使えるそうです）。ダンボールやポリ袋などで作る簡易トイレ。ジーパンと紐で作るリュック。どれも簡単に作れる優れたものでした。ミニ知識ではなく大きな知識です。この日はNHKが取材に来ていました。当日と翌日のニュースで放送されたので、見られた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

こうしてメディアに取り上げられることで、ろう者のことを知ってもらい良ききっかけになったのではと思います。

【熊本県】

「熊本地震聴覚障害者支援イベント」 天草わかぎ 吉野 綾

9月18日、19日の二日間「聴覚障害者の名前から考えよう熊本地震～ありがとう支援！これからも共に前進！～」をテーマに熊本地震聴覚障害者支援イベントが開催されました。前日には台風が接近し、自然の恐ろしさを改めて感じましたが、無事に開催することができました。

一日目は兵庫県聴覚障害者情報提供センター長 嘉田真典氏の講演「阪神淡路大震災の聴覚障害者支援を通して創ってきたもの」と、パネルディスカッションがありました。阪神淡路大震災の経験談やその後の経緯、被災者、支援者、公的機関、それぞれの立場から感じたことを伺いました。復興までには長い時間がかかること、互いに助け合いながら前向きに少しずつでも進んでいくこと等、様々なことを感じました。



二日目は、熊本聾学校生徒の手話語り、映画「うつくしいひと」「Give and Go」の上映、くまモンの手話教室、HANDS I GNのパフォーマンス等がありました。HANDS I GNのステージでは、一緒に体を動かして盛り上がりました。



私は、二日間すべてには参加できなかったのですが、職場の同僚が何人か来場していました。聴覚障害について今まで関心が無かった人たちにも何かを感じてもらうことができたイベントにもなったのかもしれませんが。二日間で延べ500人以上の参加があったそうです。老若男女はもちろんのこと、県外からの参加もありました。参加者の立場もそれぞれですが、一人一人が今後どのように行動すればよいのか、考えるきっかけや材料を得ることができたと思います。

【大分県】

「大分県聴覚障害者センターへ見学」

大分県 小林慶子

8月9日 午前10時20分に集合して車4台に分乗して出発。到着後、1階のミニシアターで説明を受ける。何度も訪れているが、ここにエレベーターがあり、非常時にはテレビ電話があり、手話で会話ができる設備があること、手話のDVDも録画編集できるスタジオがあることも初めて知りました。

* 太陽の家へ見学ツアー

9月27日 12時15分現地集合。食堂でランチを注文、お魚の定食を頂きましたが、骨が全くなく綺麗に処理されていました。なんとも配慮が行き届いていることに感動しました。食後、コーヒーを飲んで、いざ、見学スタート、2階、3階、4階と大手企業と太陽の家が共同出資した会社で障害者が働いている現場を見学することができます。その後、会議室で質疑応答があり、ガイドをしていただいた方も脳性麻痺で足と手に障害が残りと自らのこともお話して下さいました。



東京パラリンピックが太陽の家ができるきっかけだったのも初めて知り、その頃に障害者の自立を考えた創立者の中村裕先生は本当に偉大な方だったのだと思います。

東京パラリンピックが太陽の家ができるきっかけだったのも初めて知り、その頃に障害者の自立を考えた創立者の中村裕先生は本当に偉大な方だったのだと思います。

東京パラリンピックが太陽の家ができるきっかけだったのも初めて知り、その頃に障害者の自立を考えた創立者の中村裕先生は本当に偉大な方だったのだと思います。

* 防災対策講演会

10月18日 12時30分受付、13時開始 別府市中央公民館1階第一講座室で別府市企画部危機管理課課長 安藤紀文氏に講演していただきました。手話通訳をセンターに2名お願いし、私たちサークル会員にも手話の勉強ができて有意義でした。

今回は赤い羽根地域活動支援事業の企画で、お土産に笛と非常用給水バックを用意できました

が、飲物のサービスは無理でした。
諸先輩にいつも言われることですが、「手話を学ぶには、ろう者と交流することが一番大事なことだ。」これからも参加してもらえ企画を頑張ります。

【宮崎県】

「第15回手話フェスティバル」

宮崎県 荒川 真任

10月10日（月・祝）に県立聴覚障害者センターにて「第15回手話フェスティバル」が県内各地から300名の参加者を得て盛大に開催されました。



まず、安藤理事長より「障害者差別解消法」や、それに伴った「障がいのある人もない人も共に暮らしやすい宮崎県づくり条例」の施行、日向市の「手話言語条例」の事など、最近の宮崎県での状況についてお話があり、「ろう・健聴の垣根なく、きょう一日を楽しんで交流して欲しい」との挨拶があり、大きな拍手で手話フェスティバルが開会されました。

メイン会場以外でも、様々な団体のバザー・販売コーナーや、ゲームコーナーなどが設けられており、久しぶりに会う人達の会話が弾んでいたり、販売品に目を奪われる人などで多くの人で埋めつくされており、どこにいても手話が飛び交っており、フロア全体が活気あふれる状況でした。

メイン会場では手話劇や手話歌など、この日のために練習を重ねてきた方々の発表が行われておりました。

「阿波岐原通所センター」のメンバーは、他の障

害をお持ちの方々ですが、手話コーラスを練習され、音楽に合わせて楽しそうに手話をされている姿に、周りからも大きな拍手が起こっていました。

また宮崎銀行の手話歌は、CMソングとして知られている「夢に逢いに行こう」で、毎年楽しみにされている方も多く、マスコットキャラクターが風船を会場に送り出し、会場の人々が風船を空中でパスをしていくパフォーマンスもあり、盛り上がっていました。



それ以外にも手話劇で、テーマを「平和」にされた劇などは、本当に「平和とはなんだろう？」と考えさせられる内容のものや、毎年のお楽しみ「ビンゴゲーム」など楽しい催し物が多くあり、一日を通して楽しませていただきました。

今後も障害者と健常者の差別なく、皆で交流できるイベントが増えていけば、自然な形で障害者差別解消や理解が進んでいくように思います。皆さんも周りでそういったイベントがある場合、積極的に参加し、また周りの人々を誘って多くの人に理解を広めていただければと思います。

スケジュール（交流ホール）

- 10:00 開会の言葉
- 10:05 理事長あいさつ
- 10:10 諸注意
- 10:15 阿波岐原通所センター
- 10:25 筆記サポートゆうゆう



【鹿児島県】

「生活習慣病について学ぼう」

指宿なの花手話サークル 出 森 俊 郎

・2016年9月18日(日) 13:30～15:30 ハ

ートピアかごしま 多目的室

- ・主催 鹿児島県 手話通訳士協会
- ・協力 済生会鹿児島病院
- ・参加者 81名

この講座も3回目を迎えた。第2回までは四団体(県聴協、鹿通研、通訳士協会、県手連)共催であったが、今回は通訳士協会の主催。四団体会員は参加費は不要であったが、非会員は500円を必要とした。手話講習会受講生の参加も多く見られた。



済生会病院の3名の方から、パワーポイントを使いながら次のような話があった。

〈地域連携室長〉

- ・国民皆保険制度等の意義。済生会病院の概要。障害者をはじめとする生活困窮者への支援も大きな仕事。本講座も聴覚障害者に対する医療情報支援活動の一環。

〈内科医師〉

- ・生活習慣病の定義。メタボリック症候群の概念と、予防・治療に関する説明。高血圧治療の歴史、治療法。高脂血症、脂質異常症。(コレステロールの役割の重要性。悪玉コレステロール・善玉コレステロールの定義。コレステロールの摂取量に神経質にならなくてもいい人、摂取を制限する必要のある人、等についての説明。

〈管理栄養士〉

「今の食事で大丈夫?～ コレステロール編～」

- ・コレステロールを上げる食品。下げる働き

のある食品と、その摂取量。コレステロール＝悪玉ではなく、それが多量な食品、下げる食品のバランスを考えた食生活をするのが大切であること、等の説明。

医師、管理栄養士の講話の後、全体が終わった後に質問タイムがあった。

Q: 心臓病の薬を飲んでいる。医者から、食べてはいけない食品があると説明を受けたが、なぜか?

A: 心臓病の薬によっては、その薬を飲む時には食べてはいけない食品がある。例えば、納豆を食べると脳卒中や心筋梗塞につながる場合がある。医師の説明をしっかりと聞いて、それを守った方がいい。

【聴覚障害者からの質問】

Q: 調理の際にはオリーブオイル等がいいという説明があったが、食用油を使う際、どんなことに注意したらいいか?

A: 食用油は、そのままにしておくとは酸化していく。買って来たら、できるだけ早目に使うことを心がけてほしい。できれば、買ってから3か月以内に使い切った方がいいと思う。



この他にも、酒のつまみ、黒酢や健康茶、野菜ジュース、外食時の留意点等々、たくさん

の質問が出されたが、すべて聴覚障害者からの質問であった。かねてから、疑問に思っていること、聞きたいと思ってもなかなかその機会に恵まれないこと等を、直接尋ねることができるという安心感もあったのかと思う。また、自分自身にとって身につまされることも多く、とてもいい学習の機会になった。

【佐賀県】

「2016佐賀熱気球世界選手権」

佐賀県 伊東 陽子



2016年11月3日。朝からよく晴れた秋空の下、佐賀の大地で開催された佐賀バルーン世界選手権大会は、朝6

時45分から開始。大きく広がったバルーンたちが大空をめがけて飛んで行きました。

2016佐賀熱気球世界選手権大会、そこで私たち手話サークルのお手伝いがありました。大きく「手話通訳」と書かれた看板がある横の総合受付で、ろう者の方へのバルーン会場の説明をします。多くの方々が見に来てくれて、バルーンのおしゃべりに花を咲かせていました。東京からのろう者の画家の方もお見えになりました。毎年来られているようです。午後からの競技は一斉離陸の



予定でしたが、風が強くてなかなか競技開始の決断ができませんでした。今か今かと一斉離陸を見たい観客が20万人以上。競技をしたい、見せてあげたい主催者側がやっと出した決断は遅れに遅れて1時間後でした。

担当の一人が、ろう者夫婦を、人手が出て危ないので、競技会場へ案内していかれました。それまでに、バルーン競技がされるかどうかの一般の方の問い合わせが1件、トイレの場所を訪ねてこられた一般の方が3人、迷子を連れて来てくれた方が1組、酔っ払いのおじさんが1人、落とし物を届けてくれた方が1人でした。

バルーン大会の本部と間違えて来られる方がとても多かったように思います。本部の建物の前に

手話通訳のテントがあったので、こちらに目が行ってしまうでしょう。

私は手話通訳のお手伝いをしたのは初めての経験でした。遊びに来てくださるろう者の方々も知らない方々ばかりでした。なかなか会話に入り込めず、気づいたら、もう、早い手話で会話をされている。早く話しかければ良かった。今度は、ちょっと恥ずかしいと思う気持ちは捨てて会話しよう。など、ひたすら反省しました。多くの人達に、是非ともバルーン会場独特の空間を経験してもらいたいなあと思います。同じ担当の他のサークルの方々と交流できたことも、とても有意義でした。あつという間に過ぎてしまった楽しい時間。もっともっと欲しい時間でした。

佐賀県 高倉尊広

2016佐賀熱気球世界選手権大会が10月28日（金）～11月6日（日）佐賀市嘉瀬川河川敷にて開催されました。

佐賀での世界選手権開催は1997年以来19年ぶり3回目の開催です。世界中から100機を超える熱気球が集まり競技を繰り広げます。

通訳活動場所は2か所。1つはバルーン会場の中心にある総合案内所に、通訳者2名とろうあ者1名の3名体制で行います。活動時間帯は①6:00～10:00 ②10:00～14:00 ③14:00～17:00の3交代制です。

もう1か所はバルーンが飛び立つ場所（ローンチサイトと言います）のすぐそばに1か所（例年は2か所）仮設のお立ち台が用意され、そこで競技についての説明や情報、選手を応援するコメントなど3名のアナウンサーと1人の熱気球専門家の計4名の会話を通訳しています。この話は会場中に放送されており、来場の聴覚障害者にも会話を理解した上で競技としてのバルーンを楽しんでいただこうとの思いから20年ほど前より続けています。

活動時間帯は①6:00から競技終了までの2～3時間程度 ②14:00から競技終了までの2～3時間程度の1日2回です。

競技はその日の天候により変わります。よくあるのは会場のローンチサイトから一斉に飛び立つ一斉離陸。離陸した気



球は数キロ離れた目標（ターゲット）に向かって飛行し、マーカー（1.5mのリボンが付いた砂袋）を投下し、ターゲットとマーカーの距離が近い選手から得点があたえられます。1度の飛行でこのような競技が

1～5種類組み合わせられます。逆に会場の外から飛び立ち、会場内のローンチサイトに用意されたターゲットに向かって飛行してくる競技もあります。これも複数の競技が組み合わせられますので、会場内のターゲットにマーカーを投下した後、数キロ離れたターゲットに向かって飛行していきます。これも1～5種類の競技が組み合わせられます。

通訳者は主にこの競技の解説を通訳しています。専門用語とルールを理解する必要があります。20年ほど前、通訳を始めたころにろうあ者の意見を聞きながら一つ一つの用語について、ろうあ者に通じる表現を検討し、通訳活動を始めました。今でも表現を修正しながら活動しています。



【編集後記】

今年も残すところ1ヶ月となりました。月日が経つのは本当に早いですね。

宮崎での研修会の時は暑く、この夏の猛暑を予感させる気候でした。

楽しみにしていた大分大会。九手連担当の分科会は参加希望者が多く、期待を寄せていた方が多くおられたと思います。悪天候のため残念ながら大会中止となりましたね。

そしてもうすぐ12月。一年締めくくりの月です。11月号の「はっけん」の記事で分かるように、みなさまサークル活動大変お忙しいことと思います。風邪をひかず、元気に日々をお過ごしください。

私も仕事に、家事に、子育てに、サークル活動に（なぜか一番最後(^^;)）師に負けないよう走りたと思います。

みなさま、ちょっと早いですが良いお年を(^O^)/

佐賀県 タカ

九州手話サークル連絡協議会
(事務局)

〒861-0143

熊本県熊本市北区植木町大和 34-2
森 保夫

発行責任者：中元 教博

